

第5回「全広連鈴木三郎助大賞」受賞者

第5回「全広連鈴木三郎助大賞」は、6協会7作品の応募の中から仙台広告協会推薦の「あしたのみどりキャンペーン 2009・2010」を企画・実施した河北新報社あしたのみどりキャンペーン事務局に贈呈されます。

また、(社)愛知広告協会推薦の「13分を考えるバスストップ」を企画・実施した(株)ニコン、(株)朝日新聞名古屋本社、(株)電通中部支社の三社に「全広連鈴木三郎助大賞選考委員会特別賞」を贈呈することになりました。両賞の贈呈は、第59回全広連岡山大会式典の席上行われます。

第5回「全広連鈴木三郎助大賞」

企画／実施 河北新報社あしたのみどりキャンペーン事務局
作 品 「あしたのみどりキャンペーン 2009・2010」

<贈賞理由>

「あしたのみどりキャンペーン2009・2010」は、2009年4月、仙台市の市制120周年・政令指定都市20周年を記念し、「杜の都 せんだい」の意義を見つめ直すとともに、緑を守るために市民一人ひとりが今できるレベルで環境問題を考えてもらう機会を創出することを目的にスタート。新聞とWEBで展開する市民参加型エコキャンペーンで、2011年までの3ヵ年計画で実施している。

特設サイト内で、広く市民に環境や緑のために今自分ができることや、杜の都をはぐくむためのアイデア「ECOリーフ環境投稿」を募集。投稿によって、サイト内の大きな木が完成していくデザインにした。また、1投稿につき、2009年度は50円、2010年度は100円が仙台市の百年の杜づくり推進基金への寄付にあてられた。原資はキャンペーン協賛社および河北新報社が負担するので投稿者への負担はない仕組み。2009年度は、2503件の投稿で50万円、2010年度は9837件の投稿で98万3700円を寄付した。

寄付金は、協賛企業や地元住民、仙台市職員が参加して120本の桜の木を植えた

植樹祭や仙台市の緑の保全や緑化推進活動などに使用されている。行政、市民、メディアが連携して、杜の都を後世に残すための仕組みづくりを考えるとという取り組みと協賛社が2年連続で80社以上になるなど、地域貢献や環境保全活動のムーブメントを起こした点が評価された。また、この度の東日本大震災で甚大な被害を受けた当地に再び自然を取り戻してもらいたい、という意見が審査員から多く出た。

全広連鈴木三郎助大賞選考委員会特別賞

企画／実施 (株)ニコン、(株)朝日新聞名古屋本社、(株)電通中部支社
作 品 「13分を考えるバスストップ」

<贈賞理由>

2010年10月、名古屋でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催されるにあたり、生物多様性の意味をNPO、市民の視点で考える接点として仕事・生活の場に最も近いバス停(95ヶ所)を、「13分を考えるバスストップ」をテーマにメディア化。道を通過する車両・通行人への訴求とバス運行の待ち時間での市民への情報提供を実施し、同会議の認知度アップに寄与した。

1日100種、約13分に1種というスピードで起こっているとされる種の絶滅の危機を昼夜で変化するバス停のポスターで表現。昼は地球上に存在する生物の多様性を見せ、夜になるとポスターフレームの内照灯により浮かんだ影でドキッとさせるコピーとビジュアルが現れる仕掛けにした。

また、ポスター上のQRコードやURLから専用サイトを通してメッセージを送ると1メッセージにつき13円を朝日新聞社がIUCN・J(国際自然保護連合日本委員会)、NACS-J(日本自然保護協会)に寄付する仕組みも設計。メッセージは新聞紙面にも展開し、市民のCOP10に対する理解を深めるとともに、生物多様性保全に向けた意識向上の一助となった点が高く評価された。

〔全広連鈴木三郎助大賞の趣旨〕

全日本広告連盟は、加盟各地広告協会会員社が実施した斬新な広告企画をはじめ、大きな成果を挙げた広告キャンペーンなどを顕彰し、広告活動のより一層の発展を図ることを目的として「全広連鈴木三郎助大賞」を贈る。